

## 同朋大学における教員養成の目標

同朋大学は、1826年に名古屋東本願寺掛所内に開設された「閼葳長屋」に始まり、その後、住田智見師を学祖とする「真宗専門学校」を前身とします。親鸞の教えに基づく「同朋精神」を建学の精神として、「共に生きること」を学び、真の人間育成をめざす大学です。そうした歴史ある大学の建学の精神を一言でいえば「同朋和敬（どうぼうわきょう）」ということです。

「同朋（どうぼう）」とは、鎌倉初期の僧、親鸞聖人の「御同朋御同行」の精神によります。親鸞聖人は名もなき田舎の人々と共に念仏の教えに生き、念仏申す人々を「御同朋御同行」と尊敬して、「共なるいのち」を生きた人でした。その親鸞聖人が「和国の教主」と敬われたのが聖徳太子です。聖徳太子は「篤く三宝を敬え」「和（やわ）らかなるをもって貴（たつと）し」と、仏教によって国の政をした人です。同朋大学は、この親鸞聖人の「同朋」と聖徳太子の「和敬」をもって「共なるいのち」を生きるという建学の精神を教育理念としている大学です。

本学教職課程における教員養成もこの教育理念と全く軌を一にしています。すなわち、「自らのいのち（存在）と向き合うことで一人ひとりのいのち（存在）と出会い、そこから真実の道を求め、開いていく教師」の養成、これが本学教員養成の理念です。したがって、教職志望者には、授業で学んだ理論と学外活動やボランティア活動などの体験や経験から学んだ実践とが一体化された「いのち（存在）を学ぶ」という「学士力」に加えて、教員に必要な「教育力」を身につけることでこの理念を実現し、本学の教員養成に与えられた社会的使命の一端を果たしたいと考えます。

そのために、以下の目的に重点を置きながら、全学的な協力・指導体制をもってこの理念に取り組み、「共なるいのちを生きる次世代の教育者」を養成します。

### 1. 人類文化及び社会福祉に貢献する確かな教員力の育成

幅広い視野から真理を探究し、社会福祉や国際社会貢献などの専門分野を体系的に学ぶことで、すべての人が生き生きと暮らせるようにする社会の実現という現代的な課題に取り組むための確かな学力と豊かな人間性を育むことを目指します。

### 2. 社会性を持ち、広く豊かな教養に支えられた実践的指導力の養成

様々な課題を抱える子どもたちとしっかり向き合い、「共なるいのちを生きる」ために必要な指導や援助ができるよう、専門的知識や技術の修得、実践的指導力の養成を目指します。

### 3. 一人ひとりのいのち（存在）と出会い、そこから真実の道を求め開いていく自己教育力の獲得

真宗・仏教の哲学を通して、内には「自己」を発見し、外には「社会」にかかわれる人間が育つ教育、すなわち仏教精神に基づく真のリベラル・アーツを体現する自己教育力の獲得を目指します。